

# 第3、4回策定委員会でのワークショップの成果

表-2 (1/3) 地域区別の景観形成方針及び建築物等景観形成基準設定の視点

景観形成方針の検討		景観形成基準の検討				
No 地域区分	【景観形成方針】 / 方針の説明	建築物・工作物の景観形成基準設定の視点				
		配置・規模	意匠・形態	材料	色彩	その他
1 山岳地域	<p>【白馬村の象徴である白馬連峰 全ての地域で映る景観として大切に】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>白馬連峰の優れた山岳・水系景観を保全する。</li> <li>白馬村の象徴として全ての地域の背景となる景観として意識する。</li> </ul>	<p>※自然公園法に基づく基準とする。</p> <p>自然公園内では、その景観や動植物の生息・生育環境を保全するため、一定の開発行為が制限されている。地種区分により、制限される内容、規模などが異なる。</p> <p>(中部山岳国立公園後立山地域管理計画書より抜粋)</p> <p>2 風致景観の管理に関する事項 (1) 許可届出等取扱方針 工作物 (建築物)</p> <p>基本方針 周囲の自然環境と調和した形態、色彩等とし、用途に応じた適正な規模とする。</p> <p>構造意匠 外観は山小屋風 (屋根形状は原則として切妻、屋根勾配は 3/10~5/10) の単純簡素なものとする。</p> <p>材料色彩 建築物が目立たないように極力自然材料 (木・石/以下同じ) を用いる。</p> <p>色彩は屋根は焦げ茶色、壁は焦げ茶色又は茶色とする。</p>				
2 山林集落地域	<p>【山あいの自然環境と歴史ある暮らしが調和する景観を守る】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>山麓斜面、稜線の自然景観を保全する。山裾の山林などは安易な開発により景観が阻害されないように配慮する。</li> <li>山あいにある集落は、周囲の田園や山林などとの調和に努め、歴史的な集落は、雰囲気のある家並みの景観の保全に努める。</li> <li>道祖神など歴史的な資源・文化について位置づける。</li> <li>神社やお堂、石仏これらが一体化した農村文化の上でこの地域の景観がつけられている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>建物のまわりは、緑化や堆雪を考慮して、空地を確保する。</li> <li>稜線部、斜面から突出した印象を与えないよう、配置を考慮する。</li> <li>周囲の山林や集落から著しく突出した印象を与えないよう、規模や高さを抑える。</li> <li>建物の高さは2階建てまで</li> <li>雪のために1階を高くする場合への配慮</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>山並みに調和し、伝統的な建築物に揃えるよう、切妻などの勾配のある屋根とする。</li> <li>自然環境の中で違和感を与える大きな壁面とならないよう、凹凸や分節化を工夫する。</li> <li>設備機器や付帯設備 (屋外階段、ベランダ、パイプ類) は、煩雑な印象を与えないよう、デザインに配慮し、建築物等本体との調和を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>伝統的な土土や自然環境に調和するよう、できるだけ木材、石材などの自然素材、及び耐久性に優れた材料を使用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>伝統的な生活感や自然環境に調和する色を使用する。</li> <li>屋根の色は低~中明度・低彩度 (建築外装色彩指針/東エリア)</li> <li>外壁の色は中~高明度・低彩度 (建築外装色彩指針/東エリア)</li> <li>工作物は環境色を使用し、周辺になじませる。(共通事項)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然環境と調和する敷地内に優れた樹木や水辺がある場合は適切に保全する。</li> <li>地域の過疎化により、手をかけられなくなってくることに對しての対応が必要。</li> <li>看板の管理について村との関わり方を明確にする。</li> </ul>
3 田園地域	<p>【広がりのある田園と奥に見える山並み、緑に囲まれた集落の田園景観を守る】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>周囲の山並み、広がりのある田園、山裾の緑に囲まれ、白馬村の原風景といえる田園景観の維持に努める。</li> <li>塩の道などの街道沿いでは、歴史的な雰囲気のある景観の保全に努める。</li> <li>田園地域は、建物の立地など開発しやすい地域であることから、はっきりと数値で示す。</li> <li>地元の人はずっと配慮するが、地元外の人には周囲との調和を考えないので、基準の明示が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>建物のまわりは、緑化や堆雪を考慮して、空地を確保する。隣地との距離 (落雪への配慮)</li> <li>田園の中で著しく突出した印象を与えないよう、規模、高さを抑える。(低層を基本)</li> <li>白馬連峰など良好な眺望が得られる場所では、その眺望を阻害しないよう、道路から後退した配置とする。</li> <li>建物の高さは3階建てまで</li> <li>雪のために1階を高くする場合への配慮</li> <li>アルプスがどこから見えるのかによって変わるのではない。</li> <li>建物の高さを高くしても、建物の数を減らす方が景観上良いのではない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>周囲の田園風景との調和するよう、地域の伝統的な形態・意匠等の活用を努める。</li> <li>屋根の形状は示さない。(共通)</li> <li>周囲の田園風景と調和するよう、切妻などの勾配のある屋根とする。</li> <li>田園の中で違和感を与える大きな壁面とならないよう、凹凸や分節化を工夫する。</li> <li>設備機器や付帯設備 (屋外階段、ベランダ、パイプ類) は、煩雑な印象を与えないよう、デザインに配慮し、建築物等本体との調和を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>伝統的な土土や自然環境に調和するよう、できるだけ木材、石材などの自然素材、及び耐久性に優れた材料を使用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>伝統的な生活感や自然環境に調和する色を使用する。</li> <li>屋根の色は低~中明度・低彩度 (建築外装色彩指針/東エリア)</li> <li>外壁の色は中~高明度・低彩度 (建築外装色彩指針/東エリア)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>緑豊かな田園風景を演出するよう、建物周り、駐車場周りを緑化する。</li> <li>田園風景と調和する敷地内に優れた樹木や水辺がある場合は適切に保全する。</li> </ul>
【共通事項】 【その他】	<ul style="list-style-type: none"> <li>スキー場から下を見る景色も大切。村全体である程度の統一感が必要</li> <li>池田町のエリアを限定した取り組みも考える</li> <li>自然環境 (空間的) と生活文化歴史 (時間的) を楽しめる2つの景観について全体に位置づける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>どこからでも白馬連山が見える、スカイラインを切らないこと。</li> <li>山の写真を撮る際に写らないよう配電・融雪設備などの配置に配慮する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>意匠・形態は、建物の正面からだけでなく、四方を考える。</li> <li>切妻など屋根の形状は示さない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「しつらえ」の基準で、西エリアだけ青が使用できない。検討を要する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>白地地域の形態規制の見直し</li> </ul>	<p>凡例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■1グループから出た意見</li> <li>■2グループから出た意見</li> </ul>

表-2 (2/3) 地域区別の景観形成方針及び建築物等景観形成基準設定の視点

景観形成方針の検討		景観形成基準の検討				
No 地域区分	【景観形成方針】 / 方針の説明	建築物・工作物の景観形成基準設定の視点				
		配置・規模	意匠・形態	材料	色彩	その他
4 中心市街地 地域	<p>【世界的なリゾートタウンの玄関口として、もてなし、賑わいを感じるまち並み景観をつくる】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>世界的なリゾートタウンの玄関口としてのもてなし、商業地としての賑わいを感じるまち並み景観の演出を図る。</li> <li>無電柱化整備中</li> <li>お客様を迎えるためのおもてなしが大事</li> <li>強い賑わい (基準) が必要</li> </ul> <p>イメージ湧かない</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>店舗等の正面は、まち並みの連続性と賑わいを演出するよう、通りに面する壁面はできるだけ揃える。</li> <li>周囲のまち並みから著しく突出しないよう、規模、高さを揃える。</li> <li>建物の高さは5階まで</li> <li>後退線 (緑地程度) について検討が必要</li> <li>ロータリーの建物は隣とくっつけている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>建築物の正面は、自然環境と周囲のまち並みに調和するよう、意匠・形態に配慮する。</li> <li>1階の正面は、商業地らしさと賑わいを感じるよう、意匠や形態による演出を図る。</li> <li>まち並みの中で違和感を与える大きな壁面とならないよう、凹凸や分節化を工夫する。</li> <li>設備機器や付帯設備 (屋外階段、ベランダ、パイプ類) は、煩雑な印象を与えないよう、デザインに配慮し、建築物等本体との調和を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>周囲のまち並みと自然環境と調和するよう、できるだけ落ち着いた耐久性に優れた材料を使用する。</li> <li>自然環境に配慮し、反射光のある素材の使用は最小限とする。(1階のみ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然環境と調和し、落ち着きと統一感の感じられる色を使用する。</li> <li>屋根の色は低~中明度・低彩度 (建築外装色彩指針/中エリア)</li> <li>外壁の色は中~高明度・低彩度 (建築外装色彩指針/中エリア)</li> <li>賑わいを演出するアクセントとなる色彩は、色彩相互の調和、使用する量に配慮する。</li> <li>店先、店内を演出するよう、照明は温かみのある光源を用いる。</li> <li>原色はNG</li> <li>色はある程度限定・統一していく</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>緑豊かなまち並みを演出するよう、敷地内及び建物正面の緑化に努める。</li> </ul>
5 観光地域	<p>【世界的なリゾートタウンとして誇れる山並みと森と建物が調和した優れた景観をつくる】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>世界的なリゾートタウンとして周囲の自然環境と調和し、白馬村らしさと賑わいを感じるまち並み景観の演出を図る。</li> <li>まち並み景観は、ウィンターシーズンの雪景色と、グリーンシーズンの緑との調和に配慮する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>建物のまわりは、緑化や堆雪を考慮して、空地を確保する。</li> <li>敷地内に樹木や水辺が有る場合は、これらを活かすように配置する。</li> <li>周囲のまち並みや樹林地から著しく突出した印象を与えないよう、規模や高さを抑える。</li> <li>建物の高さは5階まで</li> <li>建物の高さの特例を考える。</li> <li>営業施設等の容積率・建ぺい率を定める。</li> <li>落雪への配慮 (隣地との距離)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>リゾートタウンとして、自然に囲まれやすらぎを感じるよう、意匠・形態に配慮する。</li> <li>周囲の自然環境と調和するよう、切妻などの勾配のある屋根とする。</li> <li>まち並みの中で違和感を与える大きな壁面とならないよう、凹凸や分節化を工夫する。</li> <li>設備機器や付帯設備 (屋外階段、ベランダ、パイプ類) は、煩雑な印象を与えないよう、デザインに配慮し、建築物等本体との調和を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然環境と調和するするよう、できるだけ木材、石材などの自然素材、及び耐久性に優れた材料を使用する。</li> <li>自然環境に配慮し、反射光のある素材の使用は極力用いない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然環境と調和し、洗練された格調と落ち着きの感じられる色を使用する。</li> <li>屋根の色は低~中明度・低彩度 (建築外装色彩指針/西エリア)</li> <li>外壁の色は中~高明度・低彩度 (建築外装色彩指針/西エリア)</li> <li>賑わいを演出するアクセントとなる色彩は、色彩相互の調和、使用する量に配慮する。</li> <li>自然環境と調和するよう、建物周りの照明は設置場所に配慮しながら、温かみのある光源を用いる。</li> <li>和田野は黒の外壁が増えている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>緑豊かなリゾートタウンを演出するよう、建物周り、駐車場周りを緑化する。</li> <li>境界に塀等の遮へい物は出来るだけ設けず生垣とする。</li> <li>自然環境と調和する敷地内に優れた樹木や水辺がある場合は適切に保全する。</li> </ul>
6 スキー場 地域	<p>【夏・冬ともに自然環境と見事に調和し、白馬村のシンボルとなるスキー場の景観をつくる】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>世界的なスキー場として、建築物や工作物、開発行為は、優れた自然環境との調和し、夏・冬ともに白馬らしいスキー場景観を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>稜線部、斜面から突出した印象を与えないよう、配置を考慮する。</li> <li>周囲の自然環境から著しく突出した印象を与えないよう、規模や高さを抑える。</li> <li>3階まで</li> <li>建物の高さは5階まで</li> <li>工作物の高さは既存施設まで</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>白馬山麓や周囲の自然環境に調和するよう、意匠・形態に配慮する。</li> <li>自然環境と調和するよう、切妻などの勾配のある屋根とする。</li> <li>自然環境の中で違和感を与える大きな壁面とならないよう、凹凸や分節化を工夫する。</li> <li>設備機器や付帯設備 (屋外階段、ベランダ、パイプ類) は、煩雑な印象を与えないよう、デザインに配慮し、建築物等本体との調和を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然環境と調和するするよう、できるだけ木材、石材などの自然素材、及び耐久性に優れた材料を使用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然環境と調和し、洗練された格調と落ち着きの感じられる色を使用する。</li> <li>屋根の色は低~中明度・低彩度 (建築外装色彩指針/西エリア)</li> <li>外壁の色は中~高明度・低彩度 (建築外装色彩指針/西エリア)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然環境と調和する敷地内に優れた樹木や水辺がある場合は適切に保全する。</li> </ul>
						<p>凡例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■1グループから出た意見</li> <li>■2グループから出た意見</li> </ul>

表-2 (3/3) 地域区別の景観形成方針及び建築物等景観形成基準設定の視点

景観形成方針の検討		景観形成基準の検討				
No 地域区分	【景観形成方針】 / 方針の説明	建築物・工作物の景観形成基準設定の視点				
		配置・規模	意匠・形態	材料	色彩	その他
7 国道沿道軸	<p>【周囲の自然環境と調和した沿道のまちなみ景観づくりと、田園風景を大切にされた沿道景観を守る】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>白馬村の幹線道路として、沿道における建築物や工作物、開発行為は、周囲の山並みや自然環境との調和するよう景観に配慮する。</li> <li>白馬連峰、スキー場、田園風景などが見渡せる沿道区間に関しては、その眺望景観の保全に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>白馬連峰など良好な眺望が得られる場所では、その眺望を阻害しないよう、道路から後退した配置とする。</li> <li>建物のまわりは、緑化や堆雪を考慮して、空地を確保する。</li> <li>田園の中で著しく突出した印象を与えないよう、規模、高さを抑える。</li> <li>建物の高さは2階まで</li> </ul> <p>・斜線制限検討</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>周囲の田園風景との調和するよう、地域の伝統的な形態・意匠等の活用に努める。</li> <li>周囲の田園風景と調和するよう、切妻などの勾配のある屋根とする。</li> <li>田園風景の中で違和感を与える大きな壁面とならないよう、凹凸や分節化を工夫する。</li> <li>設備機器や付帯設備（屋外階段、ベランダ、パイプ類）は、煩雑な印象を与えないよう、デザインに配慮し、建築物等本体との調和を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>伝統的な風土や自然環境に調和するよう、できるだけ木材、石材などの自然素材、及び耐久性に優れた材料を使用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>伝統的な生活感や自然環境に調和する色を使用する。</li> <li>屋根の色は低～中明度・低彩度（建築外装色彩指針/東エリア）</li> <li>外壁の色は中～高明度・低彩度（建築外装色彩指針/東エリア）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>緑豊かな田園風景とするよう、建物周り、駐車場周りを緑化する。</li> <li>田園風景と調和する敷地内に優れた樹木や水辺がある場合は保全する。</li> </ul>
8 眺望道路軸A	<p>【白馬連峰、スキー場、田園風景などが見渡せる道路として、沿道の眺望景観を守る】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>白馬連峰、スキー場、田園風景などが見渡せる道路として、その眺望景観の保全に努める。</li> <li>沿道に建築物や工作物を設ける場合は、広がりある眺望景観を阻害しないように配慮する。</li> </ul> <p>・道路軸区分要検討 Aはオリンピック道路や国道148号 →おもてなし感が必要</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>白馬連峰など良好な眺望が得られる場所では、その眺望を阻害しないよう、道路から後退した配置とする。</li> <li>建物のまわりは、緑化や堆雪を考慮して、空地を確保する。</li> <li>田園の中で著しく突出した印象を与えないよう、規模、高さを抑える。</li> <li>建物の高さは2階まで</li> </ul> <p>・道路軸ごと高さの使い分け</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>周囲の田園風景との調和するよう、地域の伝統的な形態・意匠等の活用に努める。</li> <li>周囲の田園風景と調和するよう、切妻などの勾配のある屋根とする。</li> <li>田園風景の中で違和感を与える大きな壁面とならないよう、凹凸や分節化を工夫する。</li> <li>設備機器や付帯設備（屋外階段、ベランダ、パイプ類）は、煩雑な印象を与えないよう、デザインに配慮し、建築物等本体との調和を図る。</li> </ul> <p>・イメージ湧かない</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>伝統的な風土や自然環境に調和するよう、できるだけ木材、石材などの自然素材、及び耐久性に優れた材料を使用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>伝統的な生活感や自然環境に調和する色を使用する。</li> <li>屋根の色は低～中明度・低彩度（建築外装色彩指針/東エリア）</li> <li>外壁の色は中～高明度・低彩度（建築外装色彩指針/東エリア）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>緑豊かな田園風景とするよう、建物周り、駐車場周りを緑化する。</li> <li>田園風景と調和する敷地内に優れた樹木や水辺がある場合は保全する。</li> </ul>
9 眺望道路軸B	<p>【北アルプスを目前に望むことができる道路、この眺望と調和した魅力的なまちなみ景観をつくる】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>北アルプスを目前に望むことができる眺望道路として、この眺望景観と調和した魅力的なまちなみ景観に配慮する。</li> </ul> <p>・道路軸区分要検討 Bは東の集落へ入る道や黒菱林道 →古き良き風景</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>白馬連峰など良好な眺望を阻害しないよう、道路から後退した配置とする。</li> <li>建物のまわりは、緑化や堆雪を考慮して、空地を確保する。</li> <li>周囲のまちなみから著しく突出した印象を与えないよう、規模、高さを抑える。</li> <li>建物の高さは2階まで</li> </ul> <p>・和田野エリアの道路沿い →2階から5階</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>リゾートタウンにつながる沿道として、自然に囲まれやすらぎを感じるよう、意匠・形態に配慮する。</li> <li>周囲の自然環境と調和するよう、切妻などの勾配のある屋根とする。</li> <li>まちなみの中で違和感を与える大きな壁面とならないよう、凹凸や分節化を工夫する。</li> <li>設備機器や付帯設備（屋外階段、ベランダ、パイプ類）は、煩雑な印象を与えないよう、デザインに配慮し、建築物等本体との調和を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>伝統的な風土や自然環境に調和するよう、できるだけ木材、石材などの自然素材、及び耐久性に優れた材料を使用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然環境と調和し、洗練された格調と落ち着きの感じられる色を使用する。</li> <li>屋根の色は低～中明度・低彩度（建築外装色彩指針/中エリア）</li> <li>外壁の色は中～高明度・低彩度（建築外装色彩指針/中エリア）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>緑豊かなリゾートタウンとするよう、建物周り、駐車場周りを緑化する。</li> <li>自然環境と調和する敷地内に優れた樹木や水辺がある場合は適切に保全する。</li> </ul>
10 河川景観軸	<p>【白馬連峰や田園風景など一体となり、豊かな自然を感じることができる河川の景観を守る】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>姫川、松川等は白馬連峰や田園風景など一体となった景観をつくることから河川景観を保全する。</li> <li>河川沿いの建築物や工作物については、広がる眺望景観を阻害しないように配慮する。</li> </ul>	<p>河川区域内は河川法や砂防法に基づく基準とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>河川法：河川敷地占用許可準則 抜粋（土地利用状況、景観及び環境との調整についての基準） 第十一 河川敷地の占用は、河川及びその周辺の土地利用の状況、景観その他自然的及び社会的環境を損なわず、かつ、それらと調和したものでなければならない。</li> <li>砂防法：土石流や山崩れなどの土砂災害を防ぐための法律であり、砂防指定地内において以下の行為を行うには、知事の許可が必要となる。 砂防設備に工作物その他の物件又は施設を設け、継続して砂防設備を使用する行為/河川等に流入するおそれのある場所に、土石、砂れき類するものをたき積し、又は投棄/立竹木の伐採、樹根の採取/竹木の滑下又は地引きにより運搬/土地の掘削、盛土、切土など土地の形状の変更/土石若しくは砂れきの採取、又は鉱物の採掘芝草を掘り取る行為</li> </ul>				

凡例  
 ■1グループから出た意見  
 ■2グループから出た意見

